大館の歴史散歩

遺跡と遺物 ⑤

八千年前の貝殻文土器

昭和五十四年、国道一〇三号線バイパス工事に先立つ発掘調査が、市内曲田から軽井沢までの米代川北岸のバイパス予定路線上にある六カ所の遺跡で実施された。

その遺跡の一つ、蔦ケ長根Ⅳ遺跡（現、軽井沢福祉園入口の台地上）からは、土器の表裏面に鹹水産（海産）貝の貝殻をつかって文様を施した、およそ八千年前の縄文時代早期中葉に相当する貝殻文土器が多数出土した。

貝殻文土器とは、貝殻を押しつけたり、押し引いたり、回転させたり、突いたりして土器面にいろいろな文様を施す手法で、縄文時代早期前葉に東北地方北半部から北海道南西部に生まれた施文手法で、やがて東日本全域に伝播、発展する。蔦ケ長根Ⅳ遺跡で出土した貝殻文土器は、貝殻文がもっとも発達した吹切沢―物見台式土器型式に相当する。

出土した土器は破片で、残念ながら全体がわかる完形土器は確認できなかったが、多くの破片から土器の形状を復元してみると、口縁がゆるやかに波をうち、全体が底の尖る砲弾型をした尖底土器といわれるものである。使用された貝は、サルボウガイ・ハイガイ・アカガイなどの二枚貝類のものが全国的な例で、貝の合わせ口のギザギザ（放射筋の刻み）や、貝殻表面の波形を利用して文様を描いている。

海から遠く離れた大館地方に、鹹水産貝をつかって文様を施した土器が発見されたことは、さまざまな興味ある問題を我々に提示してくれる。土器が当地方で作られたのかどうか、そうだとすると貝殻をいかにして手に入れたのか。土器を製品として手に入れたのかどうか、そうだとするとどこから移入したのか。あるいはこれらの土器をもった人間の入来があったのか、などという土器と人とのかかわり合いなどもその一つであろう。

（大館市役所 史跡探訪会）

蔦ケ長根Ⅳ遺跡出土の貝殻文尖底土器
（胴体部と底部はそれぞれ別の土器の実測図）

私の本棚
中央図書館新着図書

「ホテル・ニューハンプシャー」
J・アーヴィング著・新潮社

5人の兄弟姉妹の物語。父親は夢想家で、彼のホテルを経営したいという希望の実現過程が兄弟たちの青春の舞台となる。この小説に描きだされる世界は愛と暴力が錯綜（さくそう）する世界だが――にもかかわらず物語は不思議な美しさを失わない。

◆ 一般図書 ◆

◇私(わたくし)流（神吉拓郎）
◇探険家リチャード・バートン（藤野幸雄）◇熱愛家族（阿部牧郎）
◇江戸詩人傳（徳田武）◇大いなる小屋（服部幸雄）◇メディアの興亡（杉山隆男）◇欲シガリマセン欲しがります（井上ひさし）

◆ 児童図書 ◆

◇工作ランド（誠文堂新光社）◇少年探偵事件ノート（砂田弘）◇五年二組の占い専科（浜野卓也）◇さと子が見たこと（原あやめ）

ほか

▶9月1日～15日まで
図書の虫干しのため
休館します◀

大館市総合開発計画後期基本計画

1、長期的な重点課題

◇高速交通ネットワークの整備

・国鉄奥羽線の全線複線化と、花輪線の線形改良や電化促進、東北新幹線への接続ダイヤの整備充実を要請します。
・小坂インターの早期開設と、開設後の広域観光ルートの設定、誘客を推進します。
・日本海沿岸縦貫道北部内陸ルートの決定と早期実現のため、行政と民間が協力し強力な運動を展開します。
・第四次全国総合開発計画における高速交通ネットワークの展開を注視するとともに、地域航空システムの明確な位置づけを要望していきます。また、県との連携をとり企業化の可能性を調査します。

◇都市機能・居住環境の整備

・大館駅前地区市街地について、組合施行により再開発事業を実施し、整備します。また、大館駅～東大館駅線の計画道路約百五十㍍を貫通するとともに、小坂線敷地についても整備します。「米代川流域下水道大館処理区整備事業」の早期完成を強く要請します。また、「大館公共下水道事業」の六十二年度採択を国へ要請し、早期実現に努めます。

◇高等教育環境の整備

・大学・各種専修学校などの誘致を積極的に促進します。

◇国際交流の推進

・非核平和都市宣言を基本理念とし、世界平和を希求する国家や都市との交流を推進します。また人材交流や地場産業の製品ならびに産業技術の交流を促進し、地域産業の活性化を進めます。

2、広域行政の推進を図るために

・広域圏民総合体育館の建設を促進します。
・広域交流センター等の高度利用により、地域文化活動の振興を図ります。
・広域温水プールの建設を検討します。

◆五回にわたって大館市総合開発計画の後期基本計画の概要をお伝えしてきました。市では、この計画に基づいて、前期計画における教育文化施設・生活環境施設などの高度利用を図るとともに、市民の創意と発想を行政に反映させながら産業の活性化と快適な生活環境を創造し、住みよい豊かなまちづくりに積極的に取り組んでいきます。市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。